



「空はるか」



令和5(2023)年1月30日(月)

発行者:白井 基

授業参観で人権や命の大切さを考えました

1月27日(金)の授業参観と学級PTAでは、多くの方にご参加いただきありがとうございました。授業参観では、いじめや人権、命の素晴らしさを考える学習を行いました。



1年生は「ようこそ、どうぶつむらへ」の学習をしました。動物村に引っ越してきたおおかみと動物たちの交流を描いたもので、見かけや思い込みで決めつけることの不合理さに気づき、相手の気持ちを知って、自分はどうすればいいのかを考えました。

2年生は「おへそのひみつ」の学習をしました。お母さんのおなかの中でおへそが繋がっていて、愛情や栄養をもらって大きく成長していくことを学びました。そして、赤ちゃんが生まれてきてくれて、家族のみんながとてもうれしかったことを知りました。

3年生は「なかよしなのに」の学習をしました。自分の誕生日に大のなかよしの友だちを誘おうと思っていたのに、父親から「川の向こうの子とはなかよくするな」と言われた主人公になって、お父さんにどう話したら分かってもらえるかをみんなで考えました。



4年生は「やめろ!のひと声が」の学習をしました。友だちがいじめられている場面に居合わせたけど、いじめを止められなかった主人公の気持ちや、いじめられた子の気持ちを考えることを通して、自分ならこんな時はどうするべきかを考えました。

5年生は「ほんとの気持ちを」の学習をしました。いじめられている子にとっては、周りにいた子がそれを見ても止められなかったら、いじめていることと同じであることが分かりました。そして、傍観者にならずに、勇気をもって止めることが大切だと確認しました。

6年生は「太鼓の音が聞こえる」の学習をしました。私たちの生活の場面に使われる太鼓は日本の代表的な文化の一つですが、江戸時代ごろに作られた太鼓の多くは当時差別されていた人たちによって作られました。その素晴らしい技術が今も受け継がれていることを知り、差別に負けない人々の力強さやたくましさについて考えました。

これからも、いじめや差別の過ちや命の素晴らしさを考える学習を積み重ね、人を大切にできる人になってほしいと願っています。ご家庭でも、ご指導をよろしくお願いいたします。